

テーマ：北方領土（実践校）

後志管内 島牧村立島牧小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、北方領土について学習する単元を位置付けるとともに、北方領土の語り部による講話等を通して、北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

北方領土の特色や自分たちとの関わりについて調べる活動を通して、北方領土の自然や歴史について理解するとともに、現在も続く領土問題や返還運動を身近な問題として捉え、領土問題に興味・関心をもって生活できるようにする。

取組の様子

（1）課題の設定

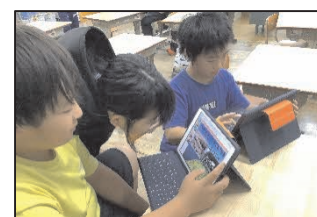
社会科の学習と関連付け、第5学年では「北方領土の特色について」、第6学年では「北方領土の歴史について」をテーマに、北方領土の特色や歴史、自分たちの生活との関わりなどについて調べ、個々の課題を設定しました。



【語り部の講話の様子】

（2）情報の収集

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を参考に、北方領土問題対策協会のWebページのコンテンツを中心に1人1台端末を活用して情報を収集しました。また、語り部によるオンラインでの講話を通して、北方領土の自然、資源及び領土問題について情報を収集しました。



【1人1台端末で交流・協議する様子】

（3）整理・分析

1人1台端末を活用して収集した情報を整理・分析するとともに、第5学年では北方領土の島ごとに、第6学年では小テーマごとにグループを構成し、同じテーマを設定した児童同士で内容について交流・協議し、北方領土の特色や自分たちの地域・生活との関わりについて理解を深めました。

（4）まとめ・表現

グループごとにアプリケーションやスライド、模造紙などを用いて発表したり、展示したりすることを通して、北方領土の特色や歴史についての理解を深めることができました。また、グループ同士で発表の内容や発表の仕方について交流する場を設け、よりよい発表を目指した活動ができました。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・1人1台端末を活用し、単元を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」がバランス良く、それぞれ関連付いた学習活動になるように計画しました。
- ・個人で調べたことを持ち寄ってグループで共同編集したり、話し合いを通してより深く知りたくなったことをさらに個人で調べたりするなど、児童同士で学習の進め方を調整しながら進めました。

実践の振り返り

- ・北方領土から地理的に遠いため、北方領土について触れる機会が少なく、関心が薄い実態がありましたが、探究的に学習を進めたことにより、北方領土に対する興味・関心が高まったり、北方領土問題を自分たちの身近な問題として捉えたりすることができました。
- ・総合的な学習の時間を中心に、各教科等の学習内容と関連付けるなど、カリキュラム・マネジメントを図ることにより、自分たちの住む町や北海道に対する愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。